

# 日本の印象

日本に再び来  
て感じたこと  
あれやこれや

## 日本の印象

ロバート・H・ブラウワー

私は「日本の印象」という大げさな  
題目で書く資格・能力なとます  
もって全然持ちあわせておりません  
とかく経験なを浅いのに、何か結論め  
たことを書くに、偏見に落ち



ドクトル・ロバート・H・ブラウワー

私は「日本の印象」という大げさな題目で書く資格、能力などまずもって全然持ちあわせておりません。とかく経験など浅いのに、何か結論めいたことを書くと、偏見に落ち入ります。結局私自身が日本の実状を少しも理解しておらないことが暴露してしまうのではないかと大いに心配です。だが、八年ぶりで御国にやってきた外国人が今日の日本を、どのように見ているかを、あけすけに言うのをお聞き下さるのも一興かとおこがましくも筆をとった次第です。もっとも、東京に来てからまだ七週間のほやほやで、電車ではるばる横浜まで旅をした以外、東京の外に出たことがないので、**「日本の印象」といっても「東京の印象」にほかならぬことをお断りして置きます。**

先ず日本の生活様式を外面的にしろ、アメリカやヨーロッパのそれと比較してみることは、私にとって極めて興味あることです。外国にゆきその国の風習、国情を理解するには、このように比較してみるのが一番手とり早い方法です。

東京に来て第一の印象は何処へ行って人もが多いことですが、日本に来たのは二度目ですから別に驚くわけはないのですが、やはり驚かざるをえませんでした。とにかく、八年前よりもよほど人が多くなつたように感じられます。

そこで西ヨーロッパで人口が最も稠密なオランダ、南イタ

リアのナポリを思い出しますが、ほんとうはこの点ではアメリカはもちろんヨーロッパともくらべることはできないわけです。実際どこに行っても、最初の印象通り人がたくさんいます。

アメリカで私はもちろん都会に住んでいます。この町は大して大きくはありませんが、人口はかなり稠密です。それでも、二、三軒も郊外に出れば見渡す限りの大平原で、家などほんのわずか点在しているに過ぎません。御承知の通り、ニューヨークのような大都市でも、そう離れていない所にも居らない静かな場所がかなりあるのです。都内にすら、ちょっと孤独感を満喫できるような淋しい所があります。こんなアメリカに住んでいた私は、現代の日本の象徴である東京では、どこに行っても人がたくさん居るので、ビックリしてしまうのです。植物園に行っても、六義園、新宿御苑に出かけても、その自然、人工の美しさより、あまりに人が多いので、それに気を奪われてしまいます。皮相的外面的な印象ですが、感じたことを卒直に書いたのです。けっして悪口をいっているわけではないと御了承下さい。

これについて、私が深く印象づけられたことは、私が居なかった八年間のうちに、日本がかくも全く面目を一新してしまつたことです。勿論、復興していることは予期してきまし

たが、現状のような大変化をしたとは夢にも思いませんでした。私の目にふれた範囲では少なくとも、あの戦争の大災害から復興し、いちじるしく繁栄しているので、全く驚かざるを得ません。商店にさえ行けば、この世にあるほどのあらゆる物品をなんでも買うことができます。銀座、日本橋のデパートまで行かないでも、その辺のちっほけな店で何でも入手できます。八年前、衣料、食糧等生活必需品は申すに及ばず、煙草、石鹼、キャンデーすらなかったことを思い出すとほんとに夢のようです。今度こちらに来るときも、日本では売ってないような物品がいくつかはあると思っていました。イギリスの場合はそうなのです。耐乏生活で輸出増進、国民経済再建のため国内消費物が輸出に振り向けられ、一般市民には買えない品物がたくさんあります。ところが東京では、ヨーロッパ、日本の小型自動車はもちろん、大き過ぎて使にくいと思われるアメリカ製の豪華な車まで、あらゆる型の自動車が町をとことん狭しと走っています。日が暮れてから銀座ラに出かけるとネオンの光がまばゆく目がくらみます。ネオンの光が実に夜の東京の繁華街を夢の国、おとぎ話の国にしてしまっています。これはおそらくニューヨークも顔負けの豪華版です。私がビックリするのも無理ないでしょう。

道行く人を眺めても、一般的に言つて服装がとくに身だし

本音がよいという印象を受けます。通る人たちは美しく品がよい服を着こなしています。もちろん、貧富の差はありますが、概括的にいってアメリカ人とくらべると日本人の方がよほど「ちゃんとして」います。東京の町を歩いているアメリカ人の多くは、例えスポーツ・シャツ、アロハ・シャツなど着ないで、ワイシャツにネクタイをつけ上着をきていても、そばを通る日本人のシブ好みの服装とくらべると、はで過ぎて悪趣味に見えます。

来たはじめ、ちょっとの間神田、美土代町のYMCAに泊ってました。御承知の通り有名な書店街の近くです。すでに、この有名な街のことは聞き及んでいましたが、こうまで書店がたくさんあるとは思いませんでした。私の居るミネアポリス市など、本屋は大学の近所に六、七軒、全市に点在しているのを引っくりまどめて十二、三軒しかありません。私をはじめて小川町から神保町へと散歩し、何百軒とある本屋を見たときの私の驚きを読者は御想像下さい。もちろん、これ等の本屋さんにはアメリカのにくらべると規模が小さいですが、其の数はアメリカ人の目から見ればまさに天文学的数字です。

両国のあいだに、何故こんなにちがいがいいのか、私にはわかりませんが、とにかく日本の方がアメリカ人より本を多

く読むと断言できるかと思えます。この点、最近日本ではテレビが普及しつつありますが、アメリカ人の多くがやるように、くだらぬテレビのプログラムに夢中になり、貴重な時間を浪費し読書を放擲するようなことがないよう願います。こうなれば神田の本屋さんはあがりです。

さて、日本の芸能には私は特に興味を持っていますので、一寸これに言及します。まず、歌舞伎を例にとります。東京に来るとすぐ見に行きました。その内容はさておいて、舞台、衣裳の美しさ、役者の演技のすばらしさ、まったく世界に冠たるもの、まさに天下の絶品です。だから、ことばのわからないアメリカ人にとっても魅力があり、多くのものがちよいちよい出かけるのです。能楽もこれと同様です。外国人がたくさん見物に行きますが、多くはそれを理解しているわけではなく、衣裳や演技にひかれています。(もっとも、日本人の中にも演技中ずつと熟睡して居られ、演技が終わった「ああすてきだった」と言っただ方を見受けました。)冗談はさておきこんな優れた芸術が日本人によって熱心にそだてられていることはまことよきことばしいことです。

これに反し大ビルディング、豪華な商店などからは、東京に来た外国人は余り強い印象を受けますまい。戦争直後の状況と比較した場合は別ですが、このようなものは彼等にとっ

て珍しくはないからです。欧米文化の日本版といった種類のものについても同様です。ところが、日本固有のもの、優れた演劇、美しい建物、ものさびた庭園、日本の創造力の歴史的結晶物には深く印象づけられます。ここに日本文化の偉大さがあると私は思います。現今の社会に生きて居られる読者の皆様は、これを現実ばなれた、古くさい、馬鹿な頑固な考え方と思われるでしょう。でも、私は長い歴史を通じ日本の天才たちが作りあげたものの方が、現代の欧米文化日本版より遙かに優れているという考を棄てるわけにはいきません。

この世の中で最も複雑な対人関係につき一言いたします。これは実際むずかしいもので、他人の心情を理解することなど、風俗の同じな同国人の間ですらなかなかの難事です。まして、日本人の心理、風俗、習慣は特別なのですから、一寸研究したぐらいいは戸惑いするような場面におつかるときが多いのです。「郷に入つては郷にしたがえ」外国人は日本に來る以上は日本の風習を充分習得する義務があります。だが、前述の通り、習俗や心理に非常なちがひがあるので、アメリカ人は一朝一夕ではこれを習得することができません。東京の生活もアメリカの生活も両方とも競争がはげしく、活潑で、あわただしく、表面的には似ていると考えられます。

しかし、私自身の目で見ただけでは、日本の生活の方がアメリカの生活より實際はテンポがおそいと思います。ちょっと、一般通念と矛盾した言い方ですが、例を上げると、日本では毎日人と交際するのに、かなり時間がとられるようです。というのはエチケットが複雑で、一寸電話で用がたせる場合でも、わざわざその家を訪問しなければならぬ場合があります。かどばった礼式になれていないアメリカ人はこれを時間の浪費だと考えてしまうのです。あのきれいに掃いた茶室の庭に落葉を二、三枚落し風情をそえるような、日本人の客をもてなすあつい心づかいはアメリカ人の大部分にはとうてい解りません。「少しも迷惑などではございません」と丁寧に言われると、その言葉通りにとつてしまつて、自分が迷惑をかけていることに気がつかないのです。日本に來てみて、日本の方々がアメリカ人に極めて親切であるのに深く感銘してきますので、弁解かたがたお詫び申上げる次第です。

由来日本の方々は未知の人に対しては、すこぶる丁重で遠慮深いのでアメリカ人ははじめは取つきにくく淋しい感じがします。この点、アメリカ人はちょっと行き会つた人にも声をかけ、全々知らない人と言葉をかかわすのも珍しいことではありません。つまり浅くつきあうのになれてます。だが、このような浅い交友関係は多くはじきまた消えてしまします。

そこへゆくと、日本人は簡単には友人を作りませんが、一度作ったら死ぬまで交友関係を続けようとし、このため努力や、時間をおしひましません。このことをアメリカ人が日本でもぶのはまことに有意義なことです。

次に日本人の人々と日々接触して個人的反米感情がないのを知って非常に驚きました。水爆実験で日本全土に恐怖感を引起したのですから、日本の新聞、雑誌が反米記事を載せるのは当然なことでしょう。個人的に嫌みを言われても、皆さんが白い眼で視られても、文句を言えた義理ではないと思いません。しかし、私の接したかぎり、日本人はたとえ理論的には反米主義者であっても、これを個人的な問題にまでしてアメリカ人個人につらくあたるといふようなことはありませぬ。実に立派な態度です。

最後にこれは児童教育の雑誌ですから家庭のことについて少し述べます。先ず、私は日本に於ける婦人の地位につきちよこちよこい批判を求められます。たしかに婦人の地位の高いアメリカでは、日本の夫は利己的で、暴君で妻を度外視するけしからぬ人たちだとの評判があります。ちよこちよこ表面的に見るとその通りですが、かならずしもそうだとはいえませぬ。両国の習慣の相異からこんな見方が生ずるのです。いつも婦人同伴で、社交の席では婦人の方がしゃべるのを普通だ

と考えているアメリカ人が妻をつれず料理屋に行く夫や、社交の席であまり発言しない妻をみると、日本では婦人が社交の楽しみを奪われており、しいたげられているという印象をもつのです。例えば、日本では友人が飯時に来たら御馳走するよい機会です。大抵のアメリカ人にはこんなことは思いもありません。というのは、友人だけを饗応したら、彼を待ちわびている奥さんに申しわけないと考えるからです。こんな習慣の違いはありますが、日本の家庭を観察してみると、日本の男子もまあ思った程の暴君ではないことがわかります。大抵の男の人は妻や家庭の事をなかなか考えています。もっともその愛情の表現方法はアメリカ人にはちよこちよこ珍しいのですが。

子供のことはアメリカのことすら私は良くは知りません。概していえば、日本の子供たちはなかなか自由が与えられていると思います。アメリカでは親は日本程子供のために精力や時間をつかいません。アメリカでは親はなかなか厳格で、私なども子供とき悪いことをしたときはどしどしおしりを打たれましたが、これはアメリカでは今日もなお珍しいことではありません。もっとも、日本でもそうするかどうかは私は知りません。私の目で見ると、日本では子供を甘やかすぞろと思われぬ節もありますが、反面両親が非常に子供を可

愛がり、深い愛情を注いでいることには感銘いたします。育てる方法のちがいがいこそあれ、日本の子供が善良な信頼すべき人になることは信じて疑いません。

以上一貫していることは、日本の人は皆ほんとに親切なあなたかい心の持ち主だということです。

外国人の書いた下手な駄文をおよみ下さって有難うございました。

終りにのぞみこの記事を誌上にのせる、光栄と名誉をお与え下さった、お茶の水女子大学の津守先生と出版社の方々に厚く御礼申し上げます。

——(言葉使い原文のまま)——

### 筆者略歴

ドクトル・ロバート・H・ブラウワー

一九二三年ボストンに生れ、一九四四年ハーバード大学卒業(仏文学を専攻)ミシガン大学にて軍の日語学校に入り、ニューギニヤ、フィリッピンを経、第八軍クルーガー大将の通訳として京都に七ヶ月をおくる。一九五一年ミネソタ大学の日本語講師となる。一九五二年ミシガン大学にて学位を得、其の間二度、イギリス、イタリヤ、マランス、ドイツ、オランダ等に遊ぶ。

### 51頁より続く

フレイベル主義幼稚園を語り、会う人毎に幼稚園の他は何も話さなかった。人々は最初はただ笑って扱っていたが、会話が終る時には、金を寄附するか、労力を奉仕するか、或いはその両方を与えることを約束していた。今や老ビーボディ女史は、どこに出かけるにも寝巻の上から洋服を着て、その両方のポケットは洗面道具でふくれ上っていた。どこに出るにもそれが彼女の旅行準備だった。ヴァン・ウィックは、ボストン名物のビーボディの姿を次のような詩の中にうたっている。

ボストンの冬の雪どけ道について

彼女は頭布ツバを斜なにのせて

白い髪は乱れ

雪と氷の中を人々に説いてまわる

彼女の姿は教育の旗幟だ

一九九四年の正月の或る日、エリザベスは外出先から帰ると急に疲れを覚えて床に横たわった。外には電車の通る音が聞えていた。恐らく、エリザベスの親しくしていた人達は、電車の音をきかずして、先立ったであろう。エリザベス・ビーボディは十九世紀のアメリカの文化を生き抜いた。そして、幼稚園運動は、彼女の生涯の最後の、そして最大の努力だったのである。